

第1回信州学び円卓会議の概要

■概要

実施日程	9月1日（金）13:20~16:00
場所	県立長野図書館3F 信州・学び創造ラボ
出席者	・円卓会議委員14名（内オンライン2名） ※別紙名簿のとおり ・阿部知事、内堀教育長
会の目的	テーマ「長野県の子どもたちにとって最適な学びのあり方」への想いの共有

※会議に先立ち、「第1回信州学び円卓会議運営委員会」を開催し、事業計画及び予算案等を承認した。

■当日の様子



■主な意見

- ・望ましい学びを実現することを教育に関する制度、仕組みが妨げている。
- ・変わりにくい学校のシステムから変わるシステムを作っていく議論をしていきたい。
- ・地方創生の鍵は教育。
- ・教育はすべての政策の基本。
- ・校長の裁量権を強めることが出来れば、学校を変えていくことが可能。
- ・本当は学校にはもっと自治権があるはず。
- ・マネジメント力のある校長の主体的な学校自治の保障。
- ・校長にマネジメント力をつける研修体系ができているか。
- ・若い教員が校長とともに、子どもたちが来たいと思える学校づくりができるとよい。
- ・変えていくときには若い教員が必要で、予算の配当、重点的な人の配置が必要。
- ・学校や先生が自由になることが重要で、それを教育行政が支える必要がある。
- ・現場を信頼し、教員をパートナーとして仕組みを作っていくことが学校を変化させるカギ。
- ・自立した教育者の自由な意思決定を尊重すべき
- ・教員の働き方改革と職業としてのイメージアップが重要。
- ・フィンランドでは教員の専門性が高く、人気があり、校長に予算権限があり、校内にカフェのような環境もある。

- ・日本の学校は忙しく教員が学び直しも出来なければ、家族を大切にしながら働ける環境でない。
- ・中山間地の学校を希望する教員がない。
- ・教科を学ぶ時間で精一杯で子どもが好きなことを追求する時間が取れない。
- ・先生に余裕ができることが重要。業務支援員の配置や部活の地域移行を促進する必要。
- ・教員を志望する学生が減少しており、危機的状況。
- ・現場で子どもたちと向き合う教員を支える体制づくりが何よりも大切。
- ・地域や民間等、多様な連携で子どもたちの育ちを支えることが大切。
- ・教育という世界、価値観の固定、集団の行動規範に苦しむ子どもや保護者がたくさんいる。
- ・未来を考え、周りがどのように価値観を変えていくことができるのかが大切。
- ・高校入試の在り方の抜本的な見直しと県独自の教員配置基準について議論ができれば。
- ・子どもたちがその地に生まれたことを誇りに思えるような学校を目指すべき。
- ・教育への重点的な予算配分が必要。

■座長のまとめ

- ・教育に関するこれまでの当たりまえを変えていくこと
- ・学校の自治、先生方の自由度を保障するため、教育システムのあり方を問い直していくこと

信州学び円卓会議 構成員名簿

(50音順)

職 名	氏 名	備 考
信州大学教職支援センター准教授	荒井英治郎	座 長
軽井沢風越学園校長	岩瀬直樹	
飯田養護学校校長	浦野憲一郎	
根羽村長	大久保憲一	オンライン 参加
(一財)白馬インターナショナルスクール代表理事	草本朋子	
長野県市町村教育委員会連絡協議会会長 長野市教育長職務代理者	近藤守	
NPO法人 Hug 代表	篠田阿依	オンライン 参加
山ノ内町教育長	竹内延彦	
(公社)信濃教育会会長	武田育夫	
松本県ヶ丘高校校長	徳永佳代	
上田市立第五中学校校長	畠山正幸	
須坂市長	三木正夫	
松本市立波田小学校校長	三輪千子	
信州大学教育学部学部長	村松浩幸	